

自己評価				
学校運営計画(4月)			評価(総合)	
学校運営方針		校訓「立志・錬磨・不愧」の精神に基づき、うきは市唯一の県立高校として、地域を愛し、地域に育てられたことに感謝し、地域の発展・充実のために貢献する。さらには一人一人が自己実現を果たすとともに、国家・社会・地域の発展に寄与する人材を育成することで、日本一満足度の高い県立高校をつくる。		
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標		
<p>昨年度は、ICTを活用した授業を推進し、タブレットを用いた調べ学習や生徒同士の意見交換や発表活動など、様々な新たな学びの形態を取り入れた授業研究がなされるとともに、一人一台タブレット端末が配置された。しかしながら、使用することが目的となり、生徒の学力向上のための授業改善の本質が今後の課題である。</p> <p>進路面においては、大半の生徒は希望進路を達成できた。今年度は、3年間を通じて計画的、継続的に指導できるキャリア教育を充実させていきたい。</p> <p>昨年度は、コロナ禍でほとんどの行事の在り方に苦慮した。生徒が主体的に考え、コミュニケーションをとりながら活動できる場面がなかった。一方でその対応が行事本来のもつ本質を考えた良い機会となった。新たなものとして、生徒自身の自己有用感や主体性を高めさせるとともに、自尊感情や奉仕の精神などの豊かな人間性の涵養が推進できるような力を注ぐ。</p> <p>地域との連携は進みつつある。本年度も、継続して安心安全な学校作りのために、本校の将来を見据えた地域との連携を進めていく。</p>	<p>生きて働く知識・技能の習得と未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成を実現する学習指導</p> <p>将来の夢や志を育み、その実現を目指すキャリア教育の実践</p> <p>規律と責任を重んじ、人としての資質を高め、自主性や主体性を涵養する生徒指導</p> <p>多様な知識・経験を有する外部人材による教職員組織の構成</p> <p>家庭や地域から信頼される学校運営と積極的広報活動</p> <p>新時代の学びを支える環境整備</p>	<ul style="list-style-type: none"> ICTを日常的に活用できる環境を整え、「文房具」として自由な発想で活用できるようにし、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進する。 学習効果を高めるため、目標に準拠した多面的評価を行うなど評価方法の改善を図る。 夢や希望を持って主体的に進路を選択できる力を育成するとともに、第1希望進路実現のために必要な資質・能力を高める。 「総合的な探究の時間」の指導内容の共通理解を図り、3年間を見通した系統的なキャリア教育を実践する。 基本的な生活習慣の確立とともに、究真館三原則「時を守り・場を清め・礼を正す」を長期的展望に立って指導し、人間力を育成する。 生徒会活動、部活動、学校行事、ボランティア活動などあらゆる機会をととて生徒の自己指導能力を高めるとともに自主性、主体性、チャレンジ精神を培う。 「社会に開かれた教育課程」の実現に向け、地域の人的資源等を活用し、学校教育を社会との連携の中で実現する。 いじめや不登校等を未然に防止し、早期に発見・対応するための取組の強化を図るとともに、外部の専門家や関係機関と連携し、組織的に対応する。 生徒と向き合う時間を最優先に確保し、家庭、地域等と連携しながら、教育活動を組織的にきめ細かく対応し、安心・安全な学校づくりと望ましい信頼関係の構築に努める。 本校の強みを中学生や保護者、中学校職員へ積極的に発信することで本校入学志願者定員割れを解消する。 すべての生徒の可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びを実現し、教育の質の向上を図るとともに、新たな感染症や災害の発生等の緊急時でも学びを保障するため学校教育の環境整備を図る。 創立20周年記念事業に向けて、同窓会・PTAと連携し、教育環境の施設・設備面を充実する。 	A	
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題
学習指導	家庭と連携して時を守る指導を徹底し、遅刻率5%以下を目指す。	家庭と連携して時を守る指導を徹底し、遅刻率5%以下を目指す。	B	<ul style="list-style-type: none"> 2学期までの全校生徒に対する遅刻率は6.4%であり、軽微な遅刻が多いので、全教職員で時間を守る指導を徹底していきたい。 授業前の黙想指導、挨拶は概ねできているが、まだまだ授業に対して受け身の生徒が多い。黙想指導を通して気持ちを切り替え、集中して授業に臨める姿勢を養っていきたい。 電子黒板や一人一台端末を取り入れた授業が増えてきている。情報管理課や研修課と連携して職員研修や情報共有を行い、さらに積極的に活用していくことで生徒の新たな学びにつなげていきたい。次年度は生徒自身が積極的にICT機器を活用して、主体的・対話的で深い学びになるような授業をいかに展開していくかが課題である。
	学習における究真館三原則(時を守り・場を清め・礼を正す)の徹底	授業前後の黒板清掃、ロッカーの整理など学習環境の整備と充実を徹底する。	B	
	生きて働く知識・技能の習得と未知の状況に対応できる思考力・判断力・表現力の育成	ICT機器を日常的に「文房具」として自由な発想で活用する学びのあり方を目指す。	B	
	すべての生徒の可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの実践	「主体的・対話的で深い学び」を実践して効果的かつ自主的に学ぶ授業を展開する。	B	
生徒指導	基本的な生活習慣を身に付け、人間力を高め、いじめや人間関係トラブルを生まない集団の形成	「指導」と「評価」の一体化と、目標に準拠した多面的な評価のあり方を図る。	A	<ul style="list-style-type: none"> 「社会に開かれた教育課程」の実現に向け、地域の人的資源等を活用し、学校教育を社会との連携の中で実現する。 いじめや不登校等を未然に防止し、早期に発見・対応するための取組の強化を図るとともに、外部の専門家や関係機関と連携し、組織的に対応する。 生徒と向き合う時間を最優先に確保し、家庭、地域等と連携しながら、教育活動を組織的にきめ細かく対応し、安心・安全な学校づくりと望ましい信頼関係の構築に努める。 本校の強みを中学生や保護者、中学校職員へ積極的に発信することで本校入学志願者定員割れを解消する。
	職員間の情報交換を密に行い、SCやSSW等の専門家との相談体制を構築し、「チーム学校」の考え方で組織的に対応を行う。	職員間の情報交換を密に行い、SCやSSW等の専門家との相談体制を構築し、「チーム学校」の考え方で組織的に対応を行う。	A	
	生徒会活動やボランティア等での主体的な活動による自己有用感の涵養	職員間の情報交換を密に行い、生徒会活動の見直しを行う。	B	
	交通安全マナーへの意識を向上させ、交通事故件数ゼロの達成	交通安全マナーへの意識を向上させ、交通事故件数ゼロの達成	B	
進路指導	個人に応じた指導による進路実現	運動会や鷹取祭など学校行事の運営を生徒主体で行い、自主的な生徒会活動を支援していく。	B	<ul style="list-style-type: none"> 究真館三原則は、各担任を中心に指導を行っているが、遅刻の多さなど改善すべき部分がある。次年度も、究真館三原則の更なる徹底を図りたい。 校則の見直しについては、生徒や保護者の意見交換の場を設けるなど、今後も組織的に改善を進めていく。 生徒会活動については、生徒の自主性を引き出すことが課題であり、大運動会や鷹取祭などの学校行事を中心に、生徒の自主的な計画作成と実践ができるように支援を図りたい。 自転車やバイク等の交通安全マナーに対する意識向上は図っているが、駐輪場の巡回指導等ができていないので、生徒に周知し、組織的に活動したい。 PTAと連携した校門指導を2回実施した。他には、月に1回程度しか校外指導が行うことができなかった。
	キャリア教育の推進	ボランティア活動や地域の行事に積極的に参加し生徒の社会性を培うとともに、地域へ本校の良さをアピールする。	A	
	進路実現に必要な学力の定着	進路希望の100%実現を目指す。また、国公立大学・西南大学・福岡大学に合計10名以上の合格者を出す。	B	
	進路実現に必要な学力の定着	進路希望調査を年2回行う。生徒の状況を把握する。また、入試情報・求人情報などを収集・分析し、学年に応じた確かな進路指導を行う。	B	

学校関係者評価	
評価(総合)	自己評価は
A	<p>A 適切である</p> <p>B 概ね適切である</p> <p>C やや不適切である</p> <p>D 不適切である</p>
項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
A	<p>授業を参観して、ICTを活用して、生徒たちが主体的に活動し、楽しく真剣に学んでいる姿が拝見できました。</p>
A	<p>なぜ、遅刻が多いのか、遅刻の原因がはつきりすればその対策が明確になる。まずはそこをしっかりと取り組んでほしい。</p> <p>自転車のヘルメット着用が努力義務になっているが、悲惨な事故を防ぐためにも、ヘルメットの着用を促してほしい。</p>
A	意見なし

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)		次年度の主な課題	項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
研 修	職員の授業力を向上させICT活用を促進	授業力向上のための研修や資料の充実で、質の高い授業づくりに取り組む。	B	A	・授業や業務においてICTの活用がますます進んでいく中で、デジタル採点やセキュリティ管理に関する職員研修を実施した。今後もICT活用に限らず、本校のニーズに合わせた研修内容について、各分掌と連携して実践的な職員研修を実施する必要がある。 ・次年度も、ICT活用のスキル向上において、学校外の様々な教職員対象研修会の案内を行い、教職員の自主的な受講を勧めていく。 ・今後も生徒の人権感覚を養成するために、人権教育についてより効果的なことを実践していかなければならない。 ・図書館を積極的に活用するためにも、今後も本の紹介や読み聞かせなどの活動を通して、読書活動の充実を呼びかけていきたい。	A	先生方もいろいろと大変かと思いますが、教員の力量を高めるための研修はとでも重要であり、教育センターやその他の研修の参加を積極的に促してほしい。
		ICT活用の研修を行い、職員のICT活用技術の更なる向上に取り組む。	A				
		相互授業参観の期間を設定し、全教員1回以上の参観を行うことで、授業の指導やICTの活用の実践に役立てる。	A				
	ニーズに応じた職員研修の実施	各分掌と連携し、本校のニーズに即した職員研修を年3回以上実施する。	A				
		教育センターの研修など各種研修案内を行い、研修への参加を推進する。	A				
		授業参観や養成講座等の案内を確実にし、教員の質向上を促す。	A				
人権教育を充実させ、図書館の活用を促進	人権教育授業や日々の教育活動を通して、生徒に適切な人権感覚を身に付けさせる。	B					
	図書館に関する情報発信を行い、生徒や職員の図書館の利用を推進する。	A					
	校内放送での本の紹介や読み聞かせを年1回以上行い、図書委員会の活動の活性化を図る。	B					
庶 務	式典・儀式の計画及び庶務関係行事の円滑な実施	式典・行事・儀式は、関係部署との連絡を密にし、一か月前を目途に計画する。	B	B	・庶務課におけるICT活用が、まだ進んでおらず、全体的に道半ばといった感じである。各行事の実施要項等は、できるだけ電子化し、ポータルサイト等を活用しながら、印刷、製本、配布時間の削減やペーパーレス化を図っていく。 ・業務が煩雑になる契機や関係性は、担当のきめ細かな対応で滞りなくできた。次年度も3学年所属の先生に担当をしてもらい、事務局と連携しながら対応していきたい。 ・PTAや同窓会との連携が「教職員の働き方改革」の観点からも難しくなっている。学校行事の計画とPTAや同窓会のお世話を一人の担当でこなすのはかなり困難であり、ほとんどの会議等が勤務時間外のかかり遅い時間の業務になってしまうので、うまく分担していく必要がある。	A	PTAや同窓会の担当は、連絡調整等大変なので可能であれば複数の先生方で分担しながら行った方が良いと感じた。
		実施要項等を速やかに作成し、ポータルサイトで職員に配信し、周知徹底を図る。	C				
		防災避難訓練を計画・実施し、非常事態に対応できるような体制・組織づくりに努める。	A				
	丁寧かつ正確に諸務の遂行	教育活動必携・学校要覧・新入生のしおりを計画的かつ正確に作成する。	A				
		職員連絡網・日直当番制などを速やかに作成し、配信・配布する。	B				
		各種奨学金等の情報を、配信等を用いて生徒・保護者に確実に周知する。	A				
PTA役員、同窓会理事と協力して諸行事を成功させるための取組	メール配信等を用いてPTA役員との連絡を密にし、PTA活動の活性化を図る。	B					
	学校規模に合わせてPTA活動の適正な在り方を検討する。	B					
	同窓会役員と連絡を密にし、創立20周年事業を進めていく。また、奨学生の選考、激励等、適切に実施する。	B					
学校活性化推進	中学校訪問等の充実	中学校等へのアピールポイントを明確にし、持参資料等を工夫する。	A	A	・本校の体験入学と、中学校の行事が重なってしまい、急速1回増やして実施した。次年度は各中学校の行事等を確認して体験入学の日程を調整していく。 ・小中と連携した授業研修は、特定の教員に偏ってしまっていたため、研修に参加しやすい体制を作り充実した取組にしたい。 ・本校の教育活動を多くの方々に知ってもらうために、ほぼ毎日、学校の様子をSNSで発信することができた。次年度も継続し、内容を充実させていきたい。 ・課題研究発表会では、うきは市役所やうきは市議会議員の方々に参観していただき、好評価をいただいた。 ・うきは「小麦」活性化プロジェクト等のうきは市と連携した事業も充実しており、次年度もさらに活性化させていきたい。	A	中学校側からも年間の行事予定等を情報共有しながら、地域の中高連携を強化していきたい。 浮羽実証館高校の様々な取組を中学校でも紹介し、生徒たちの成長につながっていくと良いと感じた。 相互授業研修は、高校から中学校だけでなく、小中学校の先生方が浮羽実証館高校の授業を参観できるようにするとも良いと思います。 中学生向けの学校説明では、授業の様子などを動画に撮って、視覚的に見せるのも有効だと思いました。
		職員の授業力向上のため小中学校との相互授業研修を行う。	B				
		中学校・塾等向けの学校説明会を実施する。	A				
	生き生きとした生徒の姿の発信	ホームページやSNS等を積極的に活用し、本校の良さをタイムリーにアピールしていく。	A				
		各広報媒体で生き生きとした生徒の姿を発信していく。	A				
		体験入学等の準備を計画的に行い、中学生や保護者に本校の魅力を伝える。	B				
地域に根差した活動の充実	本校の様々な情報を地域の回覧板で回覧する。	A					
	課題研究発表会やボランティア等、地域と連携した事業等を推進する。	A					
	スポーツを通して「小・中・社会体育連携活動」をさらに充実させる。	A					
保 健 環 境	健康教育活動の推進	定期健康診断を計画的に実施し、健康の保持増進に努める。	A	A	・定期健康診断や健康相談においては、予定通り実施することができたが、治療を必要とする生徒の治療率が低いため、三者面談等で声かけを行ってほしい。 ・7月豪雨の影響で美化コンクールの実施ができなかった。次年度は行事予定を見直し、雨などの影響を受けにくい時期での実施に変更していきたい。 ・美化週間を新たに設定し、校舎内の掃除の様子を確認する取組を行った。15分という短い時間で、十分に見回ることがなかなか難しかった。今後は、美化委員で実施方法等を検討し、継続して取り組み、生徒の美化意識向上に努める。 ・教育相談委員会を予定通り開催し、委員としてスクールカウンセラーの先生にも参加していただき、生徒の様々な言動について専門的な視点からご助言をいただいた。	A	意見なし
		健康相談を適宜実施し、諸行事における事故等を未然に防止する。	A				
		諸行事を含む学校生活全般で、さまざまな感染症・熱中症対策に取り組む。	A				
	環境美化意識の向上	美化コンクール、美化月間等を実施し、生徒の美化意識の向上を図る。	B				
		校内美化全般に関する積極的な取組を実施するため、生徒主導で美化委員会の諸活動を行う。	B				
		定期的に美化活動や清掃点検活動を行い、学習環境を整える。	A				
教育相談委員会の定期開催を主軸とした、全職員での組織的な対応	いじめ問題や不登校等の未然防止や早期解決を目指し、教育相談委員会を定期的に開催する。	A					
	教育相談に関する情報を全職員で共有し、組織的な対応を図る。必要に応じて中学校との連携を密にする。	B					
	各問題解決に向け、専門医の受診やスクールカウンセラーとの連携を図るため、窓口としての機能を果たす。	A					
情 報 管 理	校務用ネットワークの円滑な活用と運営	校務用パソコンのトラブル対応やネットワークの整備、ソフトウェアの管理業務の徹底を図る。	A	A	・校務用パソコンや一人一台端末のトラブル対応については、ICT支援員と連携し迅速に対応することができた。しかし一人一台端末使用頻度が増えるにつれて、機器のトラブルも増加しているため、生徒の使用法の改善を促したい。 ・職員朝礼においてポータルサイト活用しているが、まだ口頭連絡が主になっているので改善していきたい。 ・一人一台端末によるオンライン授業を先生方に一回以上実施するよう計画していたが、準備が整わずできなかった。しかし、一人一台端末を生徒に持ち帰らせて課題をさせるなど、使用頻度は増加しているため、授業に限らず、オンライン上でどのように効果的に学習指導ができるのか可能性を探ってほしい。 ・一人一台端末で学習目的以外のことに使用する生徒が増えたことで、制限する機能の導入を検討したい。	A	意見なし
		校務用パソコンの利便性を追求すると同時にセキュリティの向上を図る。	A				
		ポータルサイトを朝礼時間の短縮や時短勤務者への連絡に積極的に活用する。	B				
	授業用周辺機器の整備と管理	電子黒板やタブレット授業利用促進のため書画カメラや画像転送装置等の周辺機器を充実させる。	A				
		タブレットのセキュリティの向上を図る。	B				
		各種機器の帳簿による管理を徹底する。	A				
教育の情報化の推進	Chromebook(一人一台端末)の利用促進を図り、Chromebookによるオンライン授業を一人一回実施することを企画する。	B					
	レビューデイの際に考査問題の解答を示し、各自で振り返りを行う。	A					
	Chromebookの家庭利用を実現し、学力向上につなげるための方策を検討する。	A					

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)		次年度の主な課題
1年	基本的な生活習慣の確立	探究館三原則の意義を理解させ、行動に移すよう指導する。	A	A	・遅刻や欠席、掃除、整理整頓といった学習環境の整備などを含め、基本的な生活習慣の確立はできていた。過去3年間の数値と比べても非常に状況が良い、次年度も継続して指導していきたい。 ・7月の模試を全員に受験させることで、個人の学力を把握し情報共有させながら、進路指導に役に立てることができた。一方、11月の模試からは希望制にしたため、受験者が減少した。進路実現において模試受験による学力把握は欠かせない。次年度は、より積極的に模試の受験を勧めたい。 ・課題研究は各生徒が意欲的に取り組んでいた。次年度の本番に向け、良い準備となっている。 ・個人面談等を通して、希望進路や学系選択について丁寧に確認してきた。次年度はより具体的な進路情報を提供しながら、進路実現につながる流れを作っていく。
		自らすすんで挨拶ができるよう指導を徹底する。	B		
		掃除・片付けの習慣が身に付くよう学校生活における様々な場で指導する。	A		
	基礎学力の定着と資格取得の奨励	既習事項の再学習と振り返りを行わせる。	B	B	
		家庭での学習時間が増加するように各教科と連携して適切な量の課題を出す。	A		
		校外模試の積極的な受験を促すとともに、各種検定試験へ対応した個別的な学習を行う。	B		
進路実現に向けた、具体的視野の拡大	課題研究を通して進路選択の幅を持たせる。	A	A		
	個人面談や三者面談を通して希望進路を確認し、進路実現に向けた支援を行う。	A			
	保護者に向けた進路の情報提供を積極的に行う。	B			
2年	個に応じた指導による基礎学力の定着	教員が生徒間の学力差や特性を十分に理解し、1学期からの継続的な提出物の呼びかけ・補講指導を行う。	A	B	・電子黒板による単語や文章、プリントの提示、Classiや一人一台端末を活用した課題配信、小テストの実施、調べ学習など、各教科で先生方が積極的なICT活用ができていた。今後は、生徒も含めより一層の活用が求められる。 ・教職員相互で生徒の情報交換、生活指導に関する情報共有が密に図られていた。保護者への連絡もこまめに行うことができた。遅刻の増加、服装の乱れなど生活面で緩む場面が出てきているため、学年団での意思統一、生徒育成部との連携が必要になってくる。 ・総合的な探究の時間やHRを活用して、進路に関する担任面談を行うことができた。また、インターシップやオープンキャンパスへの参加、報告書提出、就職・進学に向けたスケジュール作成などを行うことができた。3年次での進路実現に向けてどのような準備をしなければならぬかを早め早めに取り組ませていく。
		ICT教材やClassi・Chromebookを有効に活用し、生徒個人に応じた授業を行う。	B		
		課外の受講や校外模試の受験、各種検定試験の受験を奨励し、受講率40%を目指す。	C		
	基本的な生活習慣・学校生活の確立	探究館三原則を意識した学校生活指導を行い、出席皆勤者30名を目指す。	B	A	
		生活態度・服装頭髪指導、遅刻欠席に関して教員間での情報交換を密に行い、家庭と連携して指導を行う。	A		
		5分前行動を意識させ、授業・集会などで余裕を持った行動をさせる。	B		
進路実現に向けた目的意識・行動の育成	インターシップやオープンキャンパスへの全員参加、総探での課題研究活動を通して、進路目標を明確にさせる。	A	B		
	進路意識を高めるため、二者面談を学期に2回以上実施する。	A			
	授業・学校行事などの学校生活を通し、自分の得意分野を理解させ、人それぞれいろいろな考え方を持っていることを認識させる。	B			
3年	生徒理解を重んじた学習支援	教科科目を問わずICT機器を日常的に活用し、学習効果の向上を図る。	A	A	・ICT活用が教科の性質上難しい授業もあるが、若手の教職員を中心に積極的にICT活用することができた。 ・定期的に学年会を行い、生徒の情報交換をすることで個々の生徒に通じた受験指導や生徒指導を行うことができた。 ・大運動会や鷹取祭などの学校行事において、最上級生らしくリーダーシップを発揮して学校全体を盛り上げることができた。 ・進路指導の対策として面接練習や個別の学習など、進学や就職それぞれの受験にあった学習環境作りを行うことができた。 ・計画していた「朝の10分間」の取組は、進路や受験方法が多岐に渡っており、効率よく教材を準備することが難しかった。これからは、総合型選抜入試や推薦型選抜入試などの面接試験や小論文に対する組織的な指導方法を工夫する必要がある。
		学年会において授業中の様子や家庭の状況などを教員間で共有し、十分な生徒理解をした上での指導を行う。	A		
		複数の担当で協力し、クラス全員に対して一斉一歩ができる生徒の観察を行う。	B		
	社会での即戦力となるような人間性やリーダー性の涵養	社会人になることを意識した、正しい言葉遣いや所作を適宜指導する。	B	A	
		大運動会や鷹取祭(文化祭)などの学校行事においてリーダーを育成し、学年全体の主体性を向上させる。	A		
		校内外の課外活動(部活動・ボランティア等)を通して、様々な価値観や職業観を身に付けさせる。	A		
生徒が個々の希望進路を実現できる実力の養成	朝の10分間において小論文対策や小テストなど希望進路に応じた取り組みを週1回ペースで行い、継続力と実力の養成を図る。	C	B		
	毎月1回の学年通信の発行や家庭への連絡をこまめに行い、家庭と学校が一体となった指導を行う。	A			
	面接練習用シートや入試対策問題集などの教材を準備し、生徒同士が協力し、主体的な受験対策が行える環境づくりを行う。	A			

項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
A	意見なし
A	意見なし
A	意見なし
評価項目以外のものに関する意見	
これからも、今まで以上に生徒のニーズに応じた対応を1年生からしっかりと取り組んでほしい。 全体的に、数値目標を立てた方が、達成できたかどうか判断しやすくなるので、次年度はできるだけ数値目標を出してほしい。	

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

【 学 習 指 導 】ICT活用の効果を検証しながら、一人一台端末を用いた調べ学習や生徒同士の意見交換など、個に応じた質の高い授業を展開していくために、職員研修の充実や地域の小中学校との連携を強めさらなる授業改善に努めていく。
【 生 徒 指 導 】教務や各学年、養護教諭と情報共有しながら遅刻や欠席の原因を分析し、SC、SSW等の専門家とも連携しながら生徒に寄り添った対応をしていくとともに、学校を中心とした基本的な生活習慣を身に付けさせる指導していく。
【 進 路 指 導 】生徒の多様な進路希望に柔軟に対応するために、ICTを活用した課題配信などで個別最適な学びの指導を行っていくとともに、教員間の連携を密にし新課程入試や就職等の情報をいち早く入手し共有していく。
【 学 校 活 性 化 推 進 】うきは市唯一の県立高校として、本校独自の取組やプロジェクトを地域と協働しながらさらに活性化させるとともに、その活動を中学生に広く伝えられるよう、今までの広報活動を見直し本校の真の魅力を伝えられるものに変えていく。